

オウム真理教とは

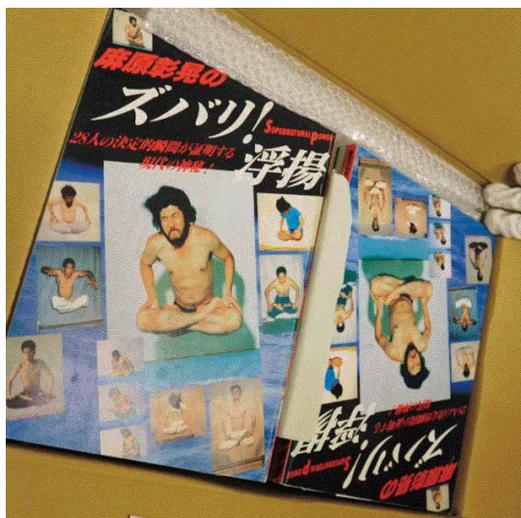
オウム真理教は、麻原彰晃こと松本智津夫が教祖・創始者として設立した団体であり、かつて麻原の指示の下、一般市民を対象に、猛毒の化学兵器であるサリンを使用して無差別大量殺人行為に及んだ松本・地下鉄両サリン事件等数々の凶悪事件を敢行した。世界的にも類を見ない両サリン事件の発生から30年近くが経とうとしている今もなお、組織を維持しつつ活動しているオウム真理教とは一体どんな団体なのか、両サリン事件の風化も危惧される中、改めてその過去を中心に振り返る。

サリンとは

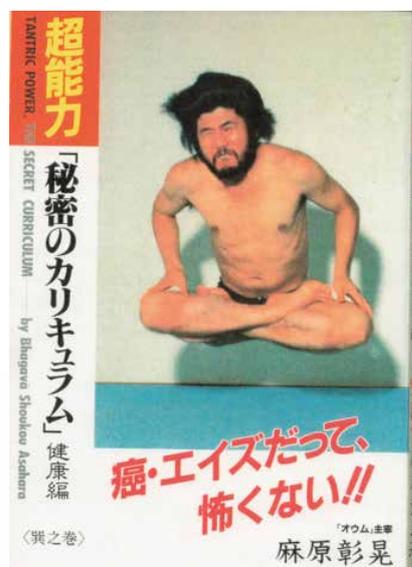
- ◆ 1930年代後半、ドイツで殺虫剤の開発過程で偶然発見された薬品を基にした有機リン系化学兵器
- ◆ 常温で無色無臭の液体。水に溶けやすく揮発性が高い
- ◆ 毒性が非常に強く、殺傷能力も高い
- ◆ 身体のどこからでも侵入。特に呼吸器から最も急速かつ効率よく吸収

1 麻原彰晃とはどんな人物だったのか

麻原は、昭和30年（1955年）3月2日に熊本県で出生し、特別支援学校を卒業後に大学進学を目指し上京した。その後、昭和59年（1984年）2月に「オウム神仙の会」を立ち上げると、当時流行していた超能力・オカルトブームに便乗し、「空中浮揚」を実現したと吹聴するとともに、その写真を雑誌等に掲載させるなど宣伝活動に利用し、多くの構成員を獲得した。



オウム真理教と同一性を有する主要な団体のうちで最大の規模を有する「Aleph」の八潮伊勢野施設に対する立入検査（令和3年12月）で確認した、麻原が「空中浮揚」したとする写真を表紙とした団体書籍
発行：株式会社オウム出版



麻原が「空中浮揚」したとする写真を表紙とした自著「超能力「秘密のカリキュラム」癌・エイズだって、怖くない!!」
発行年：1987年3月15日初版発行
著者：麻原彰晃

2 組織規模の急拡大

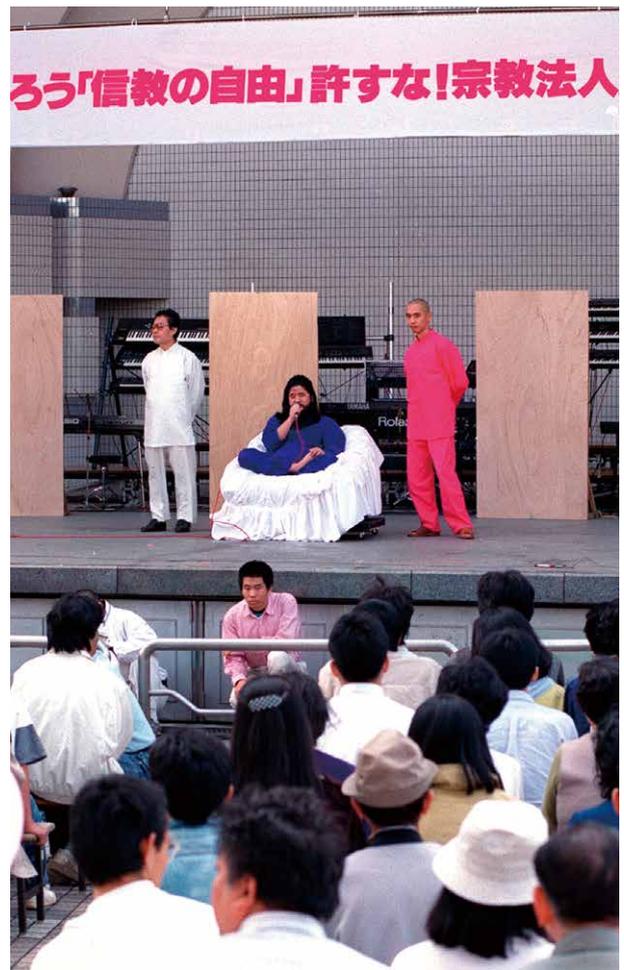
「オウム神仙の会」は、昭和62年（1987年）7月に「オウム真理教」へと名称を変更し、さらに平成元年（1989年）8月には宗教法人格を取得した。麻原の著書を次々と出版し、「修行で健康になり超能力も身に付く」、「解脱・悟りが得られる」などと喧伝したほか、陰謀論を取り入れた特異な主張も展開し、終末論、世紀末思想等に興味を抱く大学生等の若者も引き付けた。

また、麻原が、複数の大学の学園祭等でも講演（「説法」）し、教義と科学との親和性等を強調して、特に理工系学生を引き付けたほか、テレビ番組や雑誌にも登場して文化人やタレントと対談し、団体への関心を喚起するなど布教活動を進めた。このほか麻原が各国政府要人や宗教指導者とも会談し、これを権威付けにも利用した。

こうした取組の結果、オウム真理教は、設立からわずか7年弱で、組織規模を急激に拡大させ、地下鉄サリン事件を引き起こした最盛期の平成7年（1995年）3月頃までに、構成員約11,400人、日本国内に34の本支部・道場等、アメリカ・ニューヨーク、ドイツ・ボン、ロシア・モスクワ、スリランカ・アングルガハの4か国4か所にも支部・道場を開設した。

麻原による陰謀論を取り入れた特異な主張

- ◆ 世紀末が近付いている
- ◆ 権力による情報操作が行われている
- ◆ 「フリーメーソン」などのユダヤネットワークが世界を征服している
- ◆ アメリカによる対日情報操作が行われている
- ◆ 世紀末予言を分析すれば、救世主は、麻原しかいない
- ◆ オウム真理教こそが世紀末サバイバルを勝ち抜く唯一の団体である



東京・代々木公園で講演（「説法」）する麻原（写真提供：共同通信社）

3 武装化への転機～総選挙への出馬と落選～

オウム真理教は、平成2年（1990年）1月、「日本シャンバラ化計画」（理想郷建設計画）の名の下に麻原を独裁者とする祭政一致国家の樹立を企てて「真理党」を結成し、第39回衆議院議員総選挙に麻原を始めとする幹部構成員25人が出馬したが、全員落選した。

麻原は、この選挙での敗北による自らの権威の失墜を避けるため、選挙結果について、「権力やマスコミの陰謀である」などと団体内に浸透させた結果、これがオウム真理教の反社会的傾向を決定的に強め、その後の武装化への転機となった。

麻原は、選挙後の平成2年（1990年）4月に幹部構成員に対し、「これからはヴァジラヤーナ（※）でいく。現代人は生きながらにして悪業を積むからポアする」などと武装化を宣言した（オウム真理教の教義における「ポア」とは殺人に通じる概念であり、麻原は「ポア」との表現を用いて殺人を指示していた）。



「真理党」は、かぶり物を着用するなど奇抜な選挙活動を展開するも全員が落選（写真提供：日刊スポーツ/アフロ）

選挙区	立候補者	得票数	順位
東京都 第4区	麻原彰晃	1,783	13/17
東京都 第5区	上祐史浩	310	8/8
東京都 第8区	村井秀夫	72	8/9
東京都 第10区	新實智光	205	12/13
東京都 第11区	佐伯一明 (岡崎一明)	217	16/16
神奈川県 第3区	中川智正	1,445	7/7
埼玉県 第5区	廣瀬健一	397	10/10
千葉県 第4区	遠藤誠一	508	11/11

麻原を始めとする立候補した主な幹部構成員の得票数等（各種報道に基づき当庁作成）

危険な教義「タントラ・ヴァジラヤーナ」 (※ヴァジラヤーナと同義)

- ◆「タントラ・ヴァジラヤーナ」(秘密金剛乗)は、衆生救済への最速の道とされ、麻原が最重要視
- ◆麻原が課した試練を乗り越える修行が重要
- ◆結果のためには手段を選ばない、悪業を積む命は絶つべきなど、「ポア」(殺人)を正当化する両サリン事件の根源

4 武装化の推進

オウム真理教は、平成2年（1990年）4月の麻原による武装化宣言の発言に前後して、山梨・静岡両県内に形成されつつあった「サティアン」と称する大規模施設群等において、秘密裏にボツリヌス菌等の生物兵器の培養やサリン、VX等の化学兵器の生成を順次開始した。

麻原は、「サリンを東京に70トンぶちまくしかない」と述べ、大量生成するためのプラントを「第7サティアン」に建設するとともに、その散布用に旧ソ連製軍用ヘリコプター「ミル17」を購入し、我が国内に搬入させたほか、「AK-74」を模倣した自動小銃の製造等も進めた。

化学兵器・自動小銃の開発・製造等拠点（平成7年（1995年）当時）

富士山総本部（静岡県）

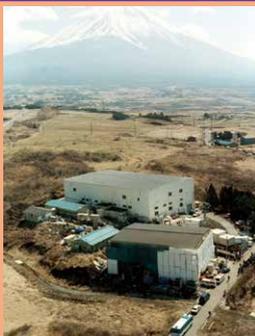


富士山総本部（第1サティアン（麻原の居室等）及び第4サティアン（アニメ制作等の作業場）を併設）（写真提供：時事）



「ミル17」（富士宮市所在の格納施設）（写真提供：毎日新聞社/アフロ）

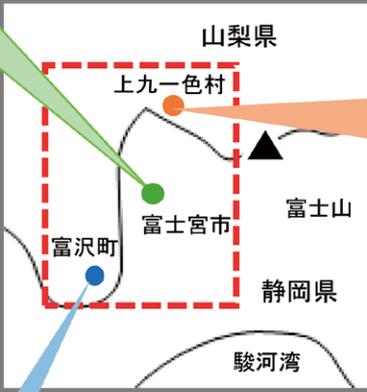
上九施設（山梨県）



手前・第7サティアン、奥：第10サティアン（修行場）（写真提供：共同通信社）



第7サティアン内部のサリン生成プラント（写真提供：時事）



山梨県
上九一色村
富士山
静岡県
富士宮市
富沢町
駿河湾

出典：国土地理院のウェブサイト「白地図」を基に当庁作成

清流精舎（山梨県）



清流精舎（自動小銃部品の製造工場等）（写真提供：時事）



中央最左・第10サティアン、同手前・第7サティアン、中央最右・第9サティアン（自動小銃部品製造工場）、同左：第11サティアン（自動小銃部品製造工場）（写真提供：時事）

富士山総本部（静岡・富士宮市）
＝“総本山”としての位置付け

上九施設（山梨・上九一色村）
＝第2、第3、第5～第12サティアンの施設等からなり、所在地別に「第一上九」から「第七上九」と称する大規模7施設群

清流精舎（山梨・富沢町）
＝実験施設として建築されたが、後に工場施設に転用



オウム真理教が製造した自動小銃（写真提供：時事）



中央奥・第6サティアン（麻原らの居室。麻原は中3階の隠し部屋に潜伏するも発見・逮捕（写真提供：共同通信社）

5 将来の国家運営をも想定

オウム真理教は、平成6年（1994年）6月頃、将来の国家運営を想定し、我が国の行政機関を模倣した「省庁制」を導入することで、麻

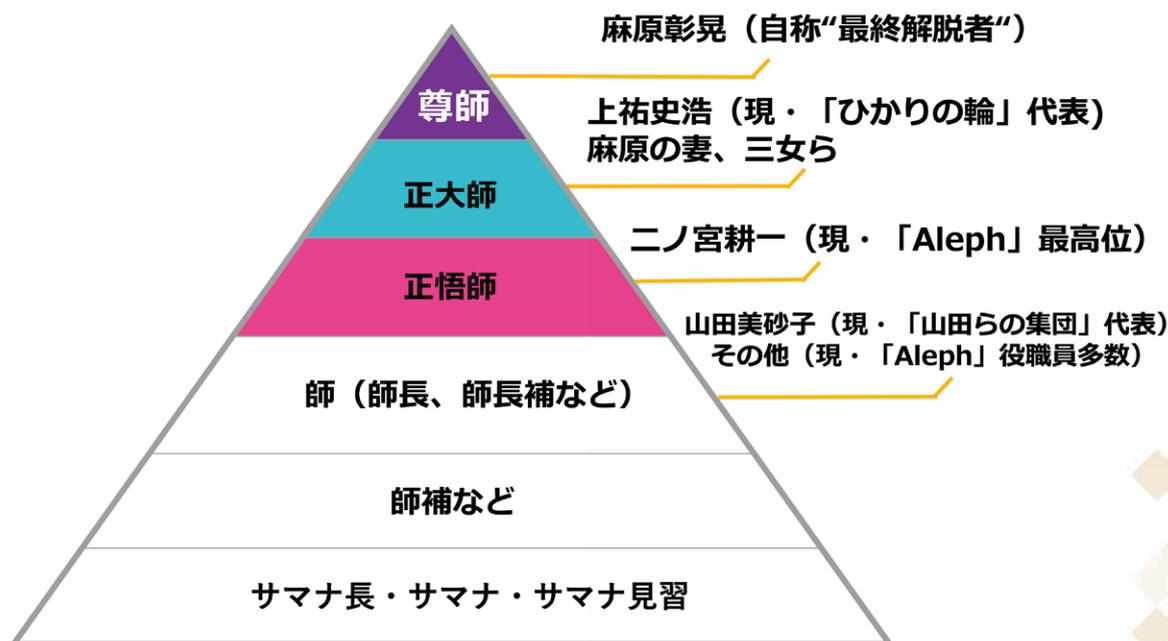
原を頂点に、高位階の構成員らを「大臣」とするピラミッド型の階層組織を確立した。

オウム真理教が導入した「省庁制」(これらのほか、法務、大蔵、防衛等の「省」が存在)。高位階の構成員のほか、麻原の家族らが「大臣」に就任(写真提供：picture alliance/アフロ)



なお、オウム真理教の位階制度は、昭和62年（1987年）に創設され、最終解脱者とされる麻原を「尊師」として頂点に置き、その位階は、上から「正大師」、「正悟師」、「師」、「師

補」、「サマナ長」、「サマナ」及び「サマナ見習」の順に大別される。これらは麻原のみが認定できる専権事項とされ、上命下服の組織構造と構成員の統制につながった。

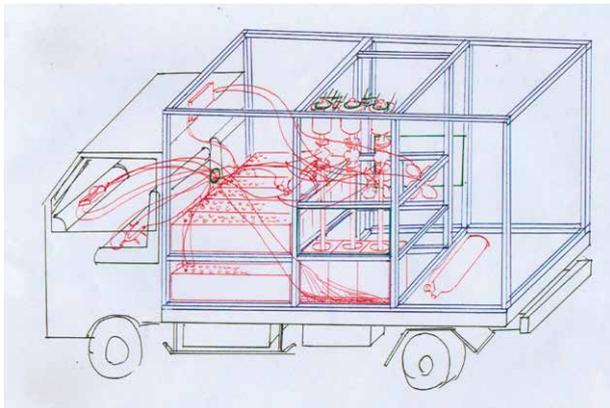


オウム真理教の位階制度。同制度がおおむね変わらず現在も続く。なお、当時、高位階には麻原の家族もいた。

6 団体が起こした数々の凶悪事件

オウム真理教は、殺人（「ボア」）をも肯定する麻原の教えに基づき、高位階の構成員らが、修行の一環と称して、平成元年（1989年）の弁護士一家殺人事件等を皮切りに、平成6年（1994年）以降、次々と凶悪事件を引き起こした。

中でも、松本・地下鉄両サリン事件は、化学兵器サリンを使用し、多数の一般市民を無差別に殺傷した未曾有のテロ事件であり、我が国のみならず、全世界に衝撃を与えた。



松本サリン事件に関与した被告が描いたサリン噴霧車両の構造図（写真提供：共同通信社）。コンテナに設置された箱形銅容器内でサリンをヒーターで加熱・気化させ、大型送風扇で外部に発散させた



地下鉄サリン事件発生後の霞ヶ関駅付近（写真提供：毎日新聞社/アフロ）

麻原を絶対的帰依の対象とし、麻原の絶対的な影響力の下に各事件を敢行

- ① 構成員殺人事件（平成元年2月上旬頃）
 - ② 弁護士一家殺人事件（平成元年11月4日）
 - ③ 構成員リンチ殺人事件（平成6年1月30日）
 - ④ 弁護士殺人未遂事件（平成6年5月9日）
 - ⑤ **松本サリン事件（平成6年6月27日）**
 - ⑥ 構成員リンチ殺人事件（平成6年7月10日頃）
 - ⑦ 脱会支援者 VX 殺人未遂事件（平成6年12月2日）
 - ⑧ 会社員 VX 殺人事件（平成6年12月12日）
 - ⑨ 被害者の会会長 VX 殺人未遂事件（平成7年1月4日）
 - ⑩ 公証役場事務長逮捕監禁致死事件（平成7年2月28日～同年3月4日頃）
 - ⑪ **地下鉄サリン事件（平成7年3月20日）**
 - ⑫ サリンプラント事件（平成5年11月頃～平成6年12月下旬頃）
 - ⑬ 小銃製造等事件（平成6年6月下旬頃～平成7年3月21日頃）
- 以上、13事件で麻原は有罪

松本サリン事件

- 平成6年（1994年）6月27日発生
- 団体に不利な判決を下す可能性もある長野地裁松本支部裁判官等が標的
- 裁判所宿舍を狙ってサリンを散布
- 8人をサリン中毒で殺害、約140人（※）にサリン中毒症の傷害

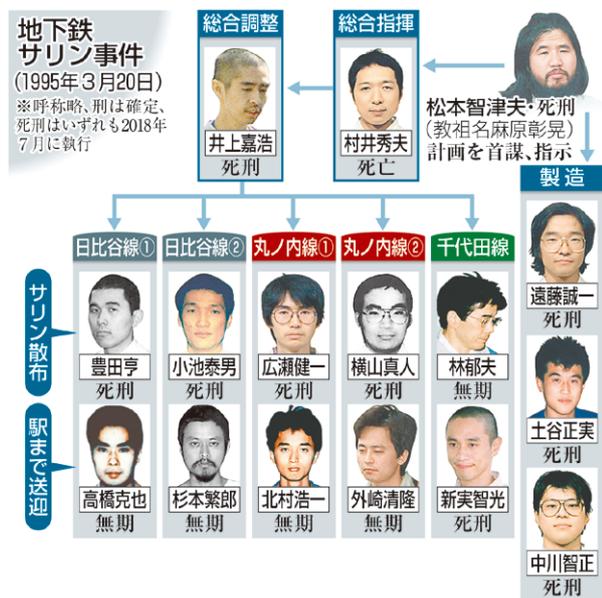
地下鉄サリン事件

- 平成7年（1995年）3月20日発生
- 団体に対する捜査のかく乱を企図
- 霞ヶ関駅を通過する3路線・5車両内でサリンを散布
- 乗客ら13人をサリン中毒により殺害、5,800人以上（※）にサリン中毒症の傷害。なお、令和2年3月、25年にわたる闘病生活の末、サリン後遺症により更に1人が逝去

※オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律に基づく給付金支給に当たり、平成22年3月までに認定された数

7 麻原と実行犯らに対する死刑執行

麻原は、平成7年（1995年）5月に逮捕された後、裁判を経て死刑判決が確定し、平成30年（2018年）7月6日に地下鉄サリン事件の実行犯らと共に死刑が執行された。さらに、同月26日にも残りの実行犯らの死刑が執行され、これでオウム真理教による一連の凶悪事件で死刑判決を受けた者13人全員の刑が執行された。



地下鉄サリン事件実行犯と、指揮命令系統及び役割分担図(写真提供:共同通信社。当庁により一部加工)



平成7年(1995年)5月、山梨県西八代郡上九一色村(当時)で逮捕・連行される麻原(写真提供:共同通信社)

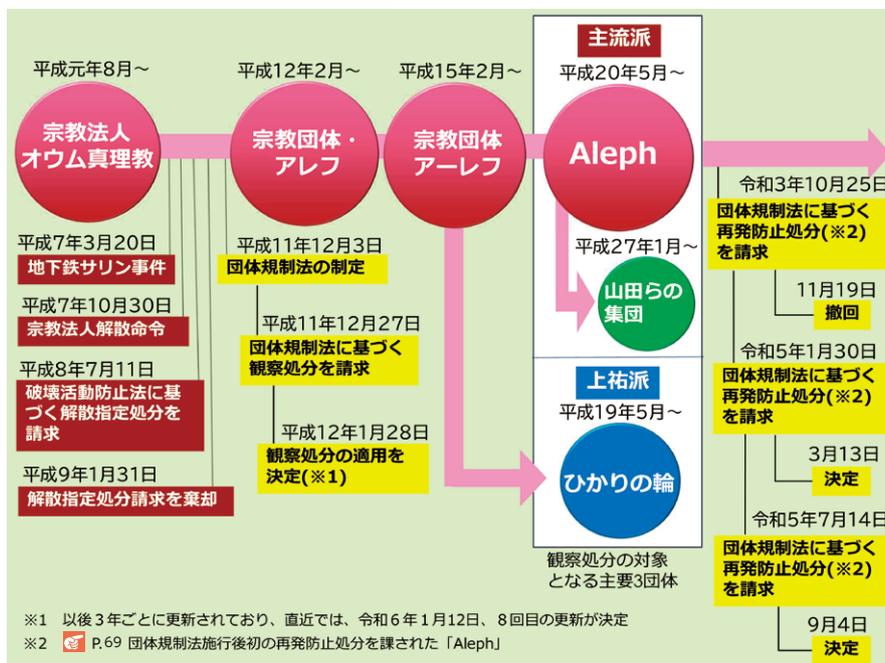


平成7年(1995年)6月、勾留尋問を終え、東京・警視庁に戻る麻原(写真提供:時事)

8 オウム真理教の現状

オウム真理教は、現在、「アレフ」^{アレフ}、「山田らの集団」(以上「主流派」)、「ひかりの輪」(「上祐派」)の主要3団体を中心に、全国に30の拠点施設を設け、約1,650人の構成員を抱えて

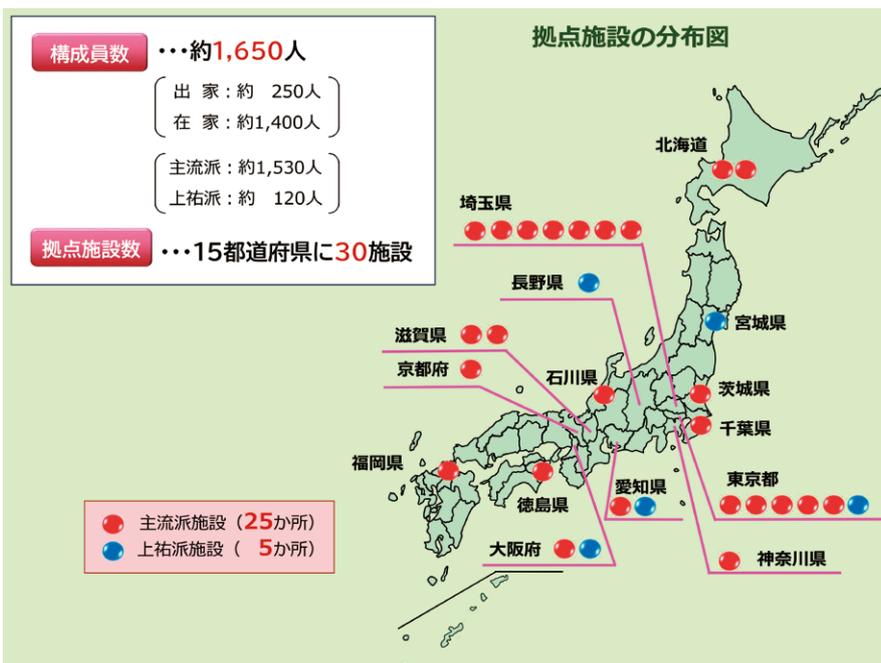
活動を続けている。いずれの団体も、麻原に絶対的に帰依するなど、依然として無差別大量殺人行為に及ぶ危険な体質を有しており、現在も観察処分に付されている。



オウム真理教の変遷

観察処分により、公安調査庁が執行可能な措置

- ◆オウム真理教の施設に対する立入検査
- ◆オウム真理教の組織現勢(構成員、資産、施設)等に関する報告書の徴取
- ◆関係地方公共団体の長からの請求に応じた調査結果の提供



オウム真理教の現状